

トビウオ通信 (6月号)

http://www2.pref.shimane.jp/suisi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成 12 年漁期の底びき網漁業の動向》

小型底びき網漁業(第1種)

島根県小型底びき網漁業(第1種)62隻の平成12年漁期(平成12年9月1日~平成13年5月31日)

の総漁獲量は5,094トン、総水揚金額は23億5,568万円でした。また1隻当たり漁獲量は82.2トン、水揚金額は3,799万円で、量・金額とも前漁期(1~2%減)および平年(6~7%減)を下回りました。

*本漁業における県全体の操業隻数は63隻ですが、ここでは62隻分の集計結果です。

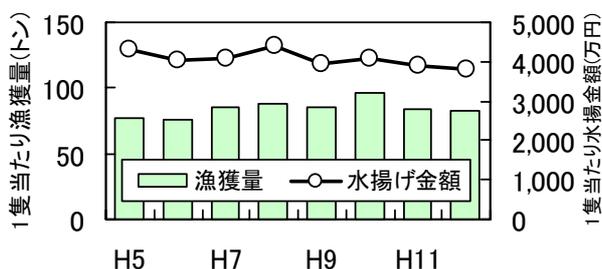


図1 小型底びき網漁業における1隻当たり漁獲量、水揚げ金額の動向

ムシガレイ・ソウハチ減少

ムシガレイは平成7年漁期以降減少傾向にあり、今漁期の1隻当たり漁獲量は4.2トンで前漁期を10%下回りました。また、漁期前半好調であったソウハチの1隻当たり漁獲量は14.8トンで前漁期を42%下回りました。特に近年3月以降にまとまった漁獲がありましたが、今年はこの春漁が低調に推移したため、前漁期を大きく下回りました。一方、ヤナギムシガレイは前漁期の39%増の1.8トンでした。

ヤリイカ・スルメイカ好調!

平成8年漁期以降減少傾向にあるケンサキイカの1隻当たり漁獲量は2.8トンで前漁期を下回りました。9月にはまとまった漁獲がありましたが、秋魚の終漁が早く、その後低調に推移しました。一方、ヤリイカは好漁年に当り、前漁期の2.3倍に当たる3.4トンの水揚げがありました。特に10~12月にまとまった漁獲が見られました。また、スルメイカは前漁期の1.7倍の3.9トンでした。

アカムツ・アンコウ増加!ニギス横合い

アカムツは秋季に小型魚が集中的に漁獲されたことにより1隻当たり漁獲量は3.3トンで前漁期の2.1倍、アンコウは漁期を通してまとまった漁獲が見られ7.2トンで前漁期の1.4倍、アナゴ類は3.5トンで14%増、いずれも前漁期を上回る

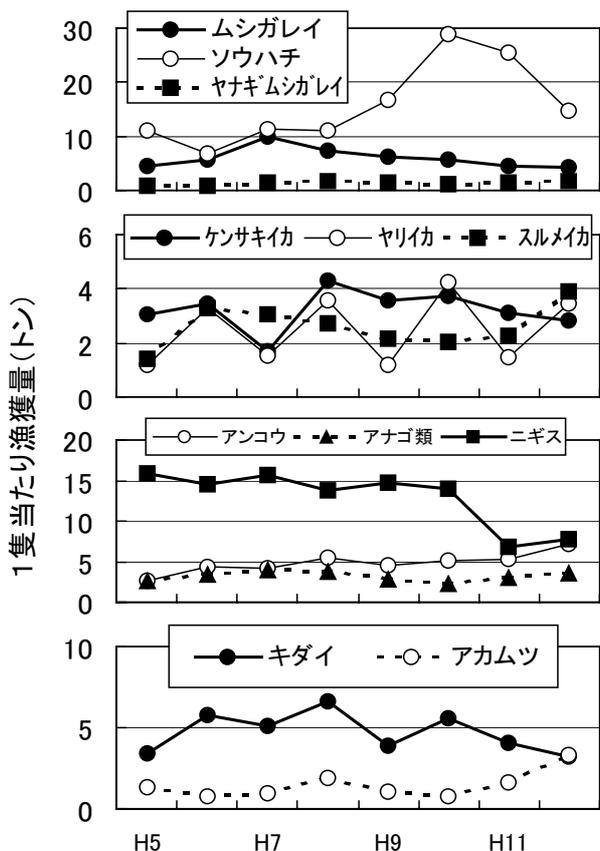


図2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向

水揚げとなりました。一方、ニギスは7.7トンで前漁期を上回りましたが、平年を大きく下回りました。また、キダイは3.2トンで前漁期を20%下回りました。

この他、今漁期はイボダイが休漁明けから豊漁であり、過去最高となる199トンの水揚げがありました。

沖合底びき網漁業

県西部

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（操業統数6ヶ統）の平成12年漁期（平成12年8月16日～平成13年5月31日）の総漁獲量は3,404トン、総水揚げ金額は16億2千万円でした。また、1統当たり漁獲量は567トンで11%、水揚げ金額は2億7千万円で5%、前漁期を上回りました。

ムシガレイ・ヤナギムシガレイ好調、ソウハチ低調

ムシガレイの漁獲量は平成10年漁期以降増加傾向にあり、今漁期は1統当たり68トンで前漁期を9%、平年（過去19年平均）を36%上回る水揚げがありました。また、ヤナギムシガレイの漁獲量は平成4年漁期以降増加傾向にあり、1統当たり24トンで前漁期を1.3倍、平年を4.3倍上回りました。一方、ソウハチは平成10年漁期以降増加傾向にありましたが、今漁期は1統当たり49トンで前漁期の58%に留まり、平年を15%下回りました。

イカ類好調

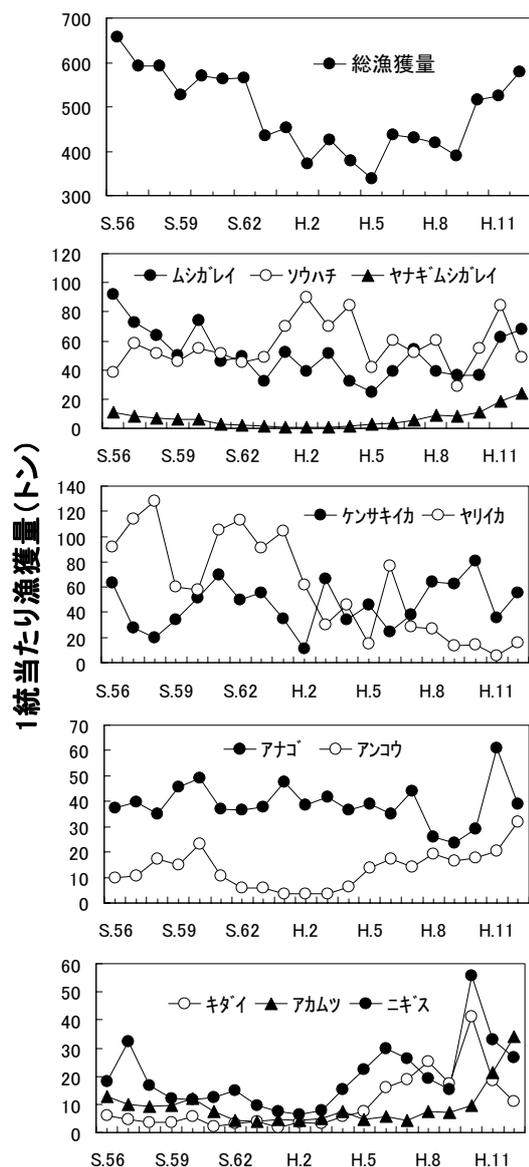
ケンサキイカの1統当たり漁獲量は55トンで前漁期の1.6倍の水揚げがあり、平年を21%上回りました。ヤリイカの漁獲量は平成7年漁期以降減少傾向にありましたが、今漁期は1統当たり16トンで前漁期を2.9倍上回る水揚げでした。また、スルメイカの1統当たり漁獲量は56トンで前漁期を58%、平年を74%上回りました。

アンコウ好調・アナゴ低調

アンコウの漁獲量は平成4年漁期以降増加傾向にあり、1統当たり漁獲量は32トンで前漁期の1.6倍、平年の2.6倍となり、昭和56年漁期以降最高でした。また、アナゴの漁獲量は平成10年漁期以降増加傾向にありましたが、今漁期は1統当たり39トンで前漁期を36%下回り、平年並の水揚げでした。

アカムツ好調

アカムツの1統当たり漁獲量は34トンで、前漁期の1.6倍、平年の4.3倍となり、昭和56年漁期以降最高でした。キダイとニギスは



浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向

は近年同様な漁獲傾向がみられ、今漁期の1統当たり漁獲量はキダイが11トン、ニギスが27トンで、それぞれ前漁期の59～81%の水揚げでしたが、平年を10～38%上回りました。また、イボダイがまとまって漁獲され、1統当たり38トンで前漁期の48倍、平年（過去9年平均）の47倍でした。

県東部

恵曇港を基地とする沖合底びき網漁業（4ヶ統）の平成12年漁期の総漁獲量は1,575トン、総水揚げ金額は8億8千万円でした。また、1統当たり漁獲量は394トンで前漁期を7%、平年（過去12年平均）を4%上回りました。水揚げ金額は2億2千万円で前漁期を4%上回りましたが、平年を4%下回りました。

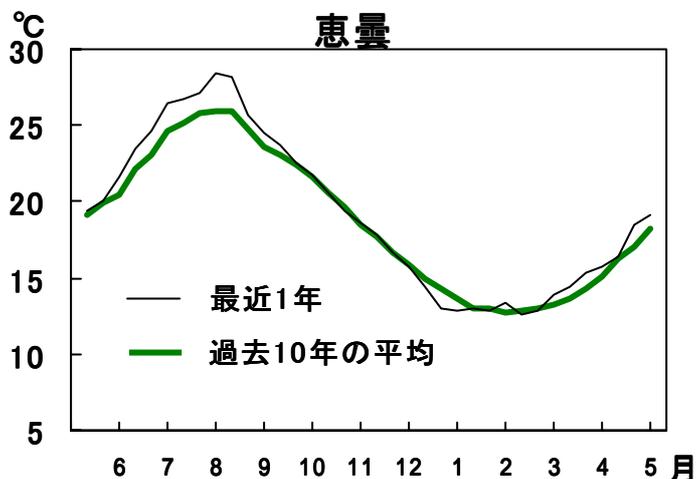
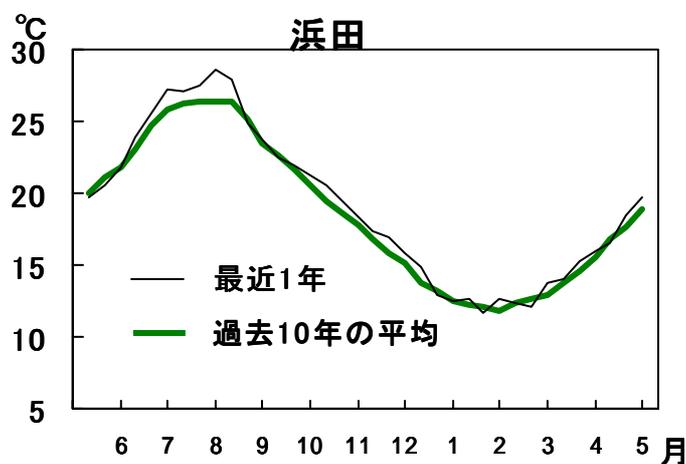
アンコウ・アカムツ・ムシガレイ・アカガレイ好調、ケンサキイカ・ニギス・ヒラメ低調

アンコウの漁獲量は123トンで前漁期の1.5倍、平年の2.3倍となり、昭和63年漁期以降最高でした。また、アカムツは20トンで前漁期の3.3倍、ムシガレイは111トン（前年比38%増）、アカガレイは301トン（前年比25%増）の水揚げでした。その他、漁獲量が前年と比べ増加（3%～21%増）した魚種はアナゴ69トン、ソウハチ137トン、スルメイカ38トンで、逆に減少（6%～42%減）した魚種はニギス31トン、ヤナギムシガレイ123トン、ヒラメ15トン、ケンサキイカ61トン、ヤリイカ12トンなどでした。

《 5月の海況 》

5月	月平均	平年差	評価
浜田	18.3	+0.5	やや高め
恵曇	18.0	+0.9	かなり高め

5月の月平均水温は4月に比べ浜田で3.2、恵曇では2.8上昇しました。浜田で「やや高め」、恵曇では「かなり高め」の水温経過でした。



6月上旬の海洋観測結果によると山陰沿岸域は、表層は沿岸から沖合いにかけての広い範囲で水温18以上を示していますが、中層(50m)および底層(100m)では複数の冷水域が発達し、場所によっては冷水域の間に暖水域が入り込む複雑な水塊配置となっています。先月浜田の北方60マイルの中・底層にみられた冷水域はやや東に位置を移し、隠岐諸島に接近する傾向がみられます。全体的な海況は、中・底層の冷水域およびその周辺で「平年並み~かなり低め」の他は、広い範囲で「平年並み~甚だ高め」となっていました。

《 5月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量はマアジ主体に329トン、総水揚金額は6,311万円でした。1統当りの漁獲量は82トンで、前年の54%、平年の15%と極めて低調でした。水揚金額は1,578万円で前年を下回ったものの前月をやや上回りました。恵曇では、マアジ主体に総漁獲量90トン、総水揚金額は2,227万円でした。1統当りの漁獲量は13トン(前年比:12%)、水揚金額は318万円(前年比:39%)でした。浦郷ではマアジ主体に総漁獲量584トン、総水揚金額は8,568万円でした。1統当りの漁獲量は117トン(前年比:28%)、水揚金額は1,714万円(前年比:63%)となりました。漁獲物のほとんどがマアジという状況の中、そのマアジも伸び悩んでおり、各地区とも低調な漁模様となっています。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカを中心に58トンで、前年の92%の水揚げとなりました。一方、西郷のイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカを中心に95トンで、こちらは前年を上回りました。浜田に水揚げされたスルメイカの魚体は20~30入りが主体となっています。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は347トン、総水揚げ金額は1億7,893万円、1統当たり漁獲量は57.9トン(前年比121%、平年比129%)、水揚げ金額は2,982万円(前年比118%、平年比144%)でした。漁の主体はムシガレイ(前年比141%)、スルメイカ(前年比84%)、アナゴ(前年比99%)、ソウハチ(前年比153%)でした。

恵曇港の総漁獲量は 148 トン、総水揚げ金額は 7,180 万円、1 統当たり漁獲量は 37.1 トン（前年比 110%、平年比 113%）水揚げ金額は 1,795 万円（前年比 128%、平年比 101%）でした。漁の主体はメイタガレイ（前年比 262%）ソウハチ（前年比 947%）ムシガレイ（前年比 330%）でした。

【小型底びき網漁業】

和江・大田市漁協ともソウハチの漁獲が低調に推移したため、1 日 1 隻当りの量・金額は前年を大きく下回りました。和江漁協ではソウハチの漁獲量が多いものの、1 日 1 隻当たりの漁獲量は前年の 30%、またハタハタも前年の 15%に留まっています。一方、アンコウ、ニギスは前年の 2.6~6.1 倍の水揚げがありました。大田市漁協ではソウハチが前年の 5 割程度の水揚げでしたが、ハタハタ、ニギスは前年の 1.4 倍の水揚げがありました。

【定置網漁業】

隠岐地区ではマアジ、ブリ、ウマツラハギ、マダイを主体に、前年の約 1.3 倍の漁獲量で、特にブリは、平年・前年の 3 倍以上の漁獲量となっています。県東部ではマアジ、コウイカ類、ブリ、ヒラマサ主体に、前年の約 1.4 倍の漁獲量で、こちらも好調に推移しています。県西部ではコウイカ類、マアジ、ブリ、ヒラマサ主体に前年並みの漁獲量でしたが、コウイカ類、ヒラマサは平年・前年を大きく上回っています。その他の魚種では、各地区とも前月に比ベトビウオ類が大きく増加しており、逆にサワラ類が減少しています。

【釣・縄】

各地区の漁模様は、隠岐地区がほぼ平年並み、その他の地区は前年および平年を下回り低調に推移しました。特に出漁日数が平年を大幅に下回った県東部の漁獲量は平年の約 70%、県西部では約 50%と大幅な減少となりました。各海域で主となる対象魚種が異なっていますが、県東部ではブリ類・スズキ、県西部ではブリ類・トビウオ類・カサゴ類、隠岐地区は前月と同様スルメイカ・カサゴ類などの水揚量が多くなっています。

漁獲統計

平成 13 年 5 月 1 日 ~ 31 日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1 隻(統)1 航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	45	マアジ	7.3 トン	329 トン
	恵曇	42	マアジ	2.1 トン	90 トン
	浦郷	60	マアジ	9.7 トン	584 トン
イカ釣り (5 トン以上)	浜田	160	スルメイカ	364Kg	58 トン
	西郷	570	スルメイカ	166Kg	95 トン
沖合底びき網	浜田	32	ムシガレイ・スルメイカ・アナゴ類	10.8 トン	347 トン
	恵曇	37	メイタガレイ・ソウハチ・ムシガレイ	4.0 トン	148 トン
小型底びき網	和江	425	ソウハチ	628Kg	267 トン
	大田市	291	ソウハチ・ハタハタ	572Kg	166 トン
定置網	浜田	94	コウイカ類・ブリ・ヒラマサ	656kg	61.7 トン
	恵曇	93	マアジ・コウイカ類・ブリ・ヒラマサ	283kg	26.4 トン
	浦郷	58	ブリ・ウマツラハギ・マダイ	856kg	49.6 トン
釣・縄	浜田	511	ブリ類・トビウオ類	55kg	28 トン
	五十猛	122	カサゴ類・ブリ類	78kg	9.5 トン

1 隻(統)1 航海当漁獲量は総漁獲量 / 延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。